

提案書Web解説の構成

提案書Web解説は、下記の内容で構成されています。

I 提案書ガイダンス

提案書テキスト「提案書の作成と提出について」をQ&A方式で補足します。

II FP総論(FPの6ステップ)の復習

FPの6ステップを振り返り、提案書が第4ステップに位置することを再確認します。

III 課題の確認

課題に示されているさまざまなデータについて、その意味などを確認します。

IV 作成見本

提案書の完成形がイメージしやすいように、全体を通した作成見本を掲載します。

提案書作成の手順

提案書は、次の手順で作成してください。

- ① 提案書テキスト「提案書の作成と提出について」を読んでください。特に提出期限をしっかりと確認してください。
- ② 提案書 Web 解説の「I 提案書ガイダンス」「II FP総論(FPの6ステップ)の復習」「III 課題の確認」を確認してください。
- ③ 提案書テキストの「提案書の作り方」、提案書 Web 解説の「IV 作成見本」を参考に、ダウンロードした「提案書ひな型」に必要な文章、金額等を入力し、提案書を完成させてください。
- ④ 提案書テキスト「提案書の作成と提出について」に書かれている提出先に簡易書留または宅配便にて送付してください。

I 提案書ガイドンス

提案書テキスト「提案書の作成と提出について」には、提案書の提出方法、提出先、提出期限など、提案書を作成、提出するにあたって必ず確認していただきたい重要な内容が記載されています。

ここでは、「提案書の作成と提出について」には記載されていない内容を、Q&A方式で補足します。

Q1 課題の相談者のデータは、提案書を作成する場合には変更しても良いですか。

A1 相談者のデータは一切変更しないでください。変更した場合には合格点に達しませんのでご注意ください。

Q2 ダウンロードした提案書のひな型の表紙と前書きの作成者欄には、「2級ファイナンシャル・プランニング技能士」と記載されていますが、まだ資格を有していないので削除した方が良いですか。

A2 提案書は「あなたが仮に2級ファイナンシャル・プランニング技能士であったならどのような提案をしますか」という前提で作成していただきます。したがって、2級ファイナンシャル・プランニング技能士の肩書きは削除せずにそのまま構いません。

Q3 ダウンロードした対策前キャッシュフロー表をそのまま添付書類として利用することができますか。

A3 ダウンロードした対策前キャッシュフロー表はそのまま添付書類として利用してください。ただし、対策後キャッシュフロー表は、各自の提案内容に沿って作成してください。

Q4 テキストに記載されている「ひな型」や前書きなどの参考文例の内容は、そのまま使用しても問題ありませんか。

A4 既にテキストに記載されている「ひな型」や参考文例などの内容は、そのまま使用しても問題ありません。参考文例は文章を一部追加していただき、「ひな型」の空欄の箇所には金額または文章を各自の提案内容に沿って記入してください。

Q5 提案書はホチキスやバインダーで綴じたほうが良いですか。

A5 ホチキスやバインダーで綴じる必要はありません。提案書がバラバラにならないければ、クリアホルダーに入れる、クリップなどで留めるなどの方法で結構です。また、これらが手元にない場合には、そのまま封筒に入れて送ってください。

Q6 提案書を今から送付しても期限までに間に合いません。送付先に直接持参しても受理してもらえますか。

A6 直接持参されても受理することはできません。このような場合には、必ず事前に送付先の電話番号に連絡していただいた上で、宅配便または簡易書留などで送付手続を取ってくだされば受理します。

Q7 提出期限日を過ぎても提案書を完成させることができません。どうしたら良いですか。

A7 2級基本講義の受講開始日(通学の場合)または2級基本講義の教材発送日(通信の場合)から1年以内であれば提出することができます。その場合には、必ず事前に送付先の電話番号に連絡してください。

Q8 提案書の作成にはどれくらいの時間がかかりますか。

A8 個人差がありますが、提案書のひな型をダウンロードして作成した場合には、毎日1時間くらいの時間を提案書の作成に割いたとして、2週間前後で完成しているようです。

Q9 提案書は何ページぐらい作成しなければなりませんか。

A9 何ページ作成しなければならないという指定はありませんので、各自の提案内容に応じて作成してください。
なお、提出された提案書は、30枚程度(添付資料を含む)のケースが多いです。

Ⅱ FP総論(FPの6ステップ)の復習

1. 第1ステップ ー顧客との関係確立とその明確化ー

ライフプランニングを始めるに当たっては、顧客との間に信頼関係を築く必要があります。そのために、顧客に対してプランニング全体のポイントやサービス内容などを説明します。また、顧客の責任とファイナンシャル・プランナーの責任を明確にしておくことも大切です。

2. 第2ステップ ー顧客データの収集と目標の明確化ー

質問紙や面談から顧客の情報を収集するとともに、ライフイベント表の作成を通じて顧客の夢や希望を把握します。

今回の提案書の作成にあたっては、提案書テキストの「課題」および提案書 Web 解説の「課題の確認」を確認することが第2ステップに該当します。

3. 第3ステップ ー顧客のファイナンス状態の分析と評価ー

現在の年間収支の状況から出発して、将来の収支状況を予想するために対策前キャッシュフロー表を作成します。そして、この対策前キャッシュフロー表に示される年間収支や貯蓄残高の状況から、顧客の家計の問題点を把握します。

第2ステップで確認した顧客データおよび目標を前提にライフイベント表、キャッシュフロー表、個人バランスシートを作成し、その分析結果から問題点を把握することが第3ステップに該当します。

4. 第4ステップ ープランの検討・作成と提示ー

住宅ローンの見直しや保険の見直しなどのキャッシュフロー表上での改善策、余裕資金があればその適切な運用方法、また住居以外に不動産を保有している場合はその有効活用などを提案書にまとめ、これを顧客に提示します。

今回の提案書の作成にあたっては、提案書テキストの「提案書の作り方」および提案書 Web 解説の「IV 作成見本」をもとに、第3ステップの分析結果にもとづいて対策を検討します。そして、ダウンロードした「提案書ひな型」に必要な文章、金額等を入力し、1冊の提案書にまとめることが第4ステップに該当します。

5. 第5ステップ ープランの実行援助ー

ライフプランの方向性が定まれば、ファイナンシャル・プランナーは顧客のライフプランの実行を援助します。

援助の仕方は、ファイナンシャル・プランナーが企業系ファイナンシャル・プランナーか独立系ファイナンシャル・プランナーかによっても異なりますが、どちらの場合も顧客の利益を優先しなければなりません。

6. 第6ステップ ープランの定期的見直しー

提案書は1年に1回程度のメンテナンスが欠かせません。顧客の年齢や価値観の変化、さらに経済や社会環境の変化に応じてプランの見直しを行うなど、定期的かつ継続的にフォローをしなければなりません。

Ⅲ 課題の確認

ここでは、「FP総論」で紹介されたライフイベント表、キャッシュフロー表および個人バランスシートについての知識を前提に、提案書の作成の題材となる課題について、その内容を確認します。これから作成する提案書のベースとなるものですから、十分に理解しておくことが大切です。必ずお読みになってください。

■ 表紙の「課題の主旨」

この主旨には、「この課題では、定年後のライフプランと生涯にわたって生活資金が確保できる提案をしていただきます。」と記されています。

神田家の対策前キャッシュフロー表を作成すると、貯蓄残高は2042年に－6万円となります。その後、貯蓄残高はプラスに転ずることなく、30年後の貯蓄残高は－574万円になります。

この状況は生涯にわたって生活資金が確保できているとはいえません。したがって、皆さんはさまざまな角度から神田家の家計の問題点を見つけ、これを改善するための対策を考えなければならないのです。そして、その対策を実行に移した場合のシミュレーションとして対策後のキャッシュフロー表を作成します。

その対策後のキャッシュフロー表の貯蓄残高が30年後においてもマイナスとまらない状況を作り出すことが、課題の主旨に記されている「生涯にわたって生活資金が確保できる提案」に他なりません。

したがって、提案書を作成する際には、まず30年後の貯蓄残高がマイナスとまらないようにすることを優先的に考えてください。その上で、神田家の夢や目標を実現させ、また、神田家の心配や不安を取り除ける家計改善のプランを立てるようにしてください。

■ A . 相談者のデータ

「A. 相談者のデータ」は、顧客情報のうち定量的情報に該当します。定量的情報は質問紙によって収集するのが一般的です。課題においても、神田さんに質問紙を渡して、記入後に提出していただいたという想定です。ただし、以下の項目は、課題として所与ないし付加した情報であることをご承知ください。

2. 現在の収支状況

①現在の収入・・・「可処分所得」、「備考」

②現在の支出・・・「備考」

3. 将来の収支予測

①将来の収入予測・・・「収入の時期・金額のうち退職金の手取額と年金の金額」、「変動率などの前提条件など」

②将来の支出予測・・・「変動率などの前提条件など」

4. 保有している財産

①金融商品・・・「変動率などの前提条件など」

②不動産、その他・・・「備考」

8. 加入している火災保険・自動車保険

それぞれの「備考」

また、「A. 相談者のデータ」の右側に示された日付は神田家に関する家族構成や現在の収支状況などのデータの基準日です。ひな型ではこの日付は入力済みとなっていますが、ひな型を利用せずにゼロから提案書を作成する場合は、この日付の入力を忘れないようにしてください。

1. 家族構成

神田家は夫婦と子ども2人の4人家族ですが、長男の一郎さんは別居しており、同居の家族は3人です。

テキストの解説(p.46～49)で説明する「キャッシュフロー分析」の消費支出において、神田さんの世帯人数を3人としているのは、別居している一郎さんを除いているからです。別居か同居かの違いはこんな所にも影響することを覚えておきましょう。

2. 現在の収支状況

(1) 現在の収入

給与収入は対策前(対策後)キャッシュフロー表には可処分所得で記入します。なお、可処分所得は課題に与えられていますので、これを対策前(対策後)キャッシュフロー表に記入します。また、添付資料として可処分所得の求め方を明示してください。可処分所得の算定の仕方は、テキストの解説(p.32～35)を参照してください。

なお、定年退職する年は1月分の給与が発生しますが、課題においては詳細な資料がないため計算を省略します。

(2) 現在の支出

ここに示された生命保険料は、「6. 加入している生命保険・医療保険」に記されている月額保険料に 12 (月) を乗じて年額に置き換え、さらに万円未満を四捨五入した金額です。

また、損害保険料は、「8. 加入している火災保険・自動車保険」に記されている年額保険料の万円未満を四捨五入した金額です。

対策前キャッシュフロー表には、ここに記されている保険料を記入するようにしてください。

3. 将来の収支予測

(1) 将来の収入予測

① 給与収入

昇給率が0%とされています。これは神田さんの年齢から考えて、定年までの残りの5年間に昇給が見込まれないことを意味します。

② 退職金

対策前(対策後)キャッシュフロー表では退職金は手取額で記入します。なお、退職金の手取額は課題に与えられていますので、これを対策前(対策後)キャッシュフロー表に記入します。また、添付資料として退職金の手取額の求め方を明示してください。退職金の手取額の求め方はテキストの解説(p.36~37)を参照してください。

また、退職金については変動率を考慮しないことになっています。これには次のような理由があります。

- ・退職金は退職時の給与や勤続年数などに応じて算定される。
- ・物価変動に連動してその見込額が変動することはない。

③ 公的年金(太郎様)(花子様)

公的年金の年金額は、実際にはファイナンシャル・プランナーが顧客から提出を受けた「ねんきん定期便」のコピーなどを元に推算する必要があります。ただし、課題においてはその金額は調査済みと仮定して所与のものとしています。課題に与えられた年金の金額は正しいものとして、対策前(対策後)キャッシュフロー表などを作成してください。

また、公的年金には変動率は考慮しないことが条件となっています。これは、課題に記された年金額の見込額(つまり、現在価値)を物価の上昇等の見込みに合わせて将来価値に修正する必要がないことを意味します。なぜ将来価値への修正が必要でないのかは、次のような理由があります。

- ・年金額はマクロ経済スライドで調整されるが、将来の年金額の算定については、不確定な要素が多い。
- ・収入の金額は控えめに算定した方が、年間収支や貯蓄残高を控えめに計算することにつながる。
- ・年間収支や貯蓄残高を控えめに計算することで、家計状況をシビアに見つめることができる。

(2) 将来の支出予測

① 基本生活費

変動率は1%、二郎さんが就職した後は年額で40万円を減額することになっています。計算の仕方はテキストの解説(p.40)を参照してください。

② 住宅ローン

課題の住宅ローンは、全期間固定金利となっています。したがって、完済時まで住宅ローンの返済額は増減しません。このことが、変動率を考慮しない最大の理由です。

では、変動金利で住宅ローンを借りていた場合はどうなるのかという疑問が生ずると思います。

変動金利型のローンの場合、市場金利の変動に応じて住宅ローンの金利が見直され、5年に一度返済額が見直されます。返済額が見直されれば、見直し後の金額で住宅ローンの返済額を記入すれば良いだけです。つまり、物価の上昇を1%と見込んだからといっても、それに伴って住宅ローンの返済額を増額するような計算は一切不要となります。

要するに、どんな金利タイプで住宅ローンを借りていても、キャッシュフロー表に記入する金額は現在の返済額で良いことになります。金額に変更が生じたら、変更が生じた時点でキャッシュフロー表を作り直せば良いと覚えておきましょう。

③ 住宅維持費

現在の住宅維持費としての支出は固定資産税や修繕費などを合わせて年額 24 万円としています。将来の住宅維持費については、この 24 万円の支出が物価の上昇分だけ増えていくという想定となっています。

さて、住まいの状態によっては大規模な修繕(屋根や壁面の取替え工事など)が必要な場合もありますから、毎年 24 万円(現在価値)の見込みというのは単純すぎます。

しかし、課題としてあえて単純化しているだけです。本来は顧客に住まいの状況などを尋ねながら、大規模な修繕などが必要な場合は、その予算を見込むことが必要な場合もあることを覚えておきましょう。

④ 教育費

教育費については、進学ルートが明確になっている場合は、その学費を個別に調べるのが大切です。ただし、子どもの年齢が小さく、学校が特定できていない場合などは、文部科学省などの調査による教育費などを目安に計算し、さらに変動率を考慮してください。

なお、課題においては、二郎さんが現在高校3年生であり、進学する大学も特定しているという前提で、進学先の大学の授業料を個別に調べた結果を教育費として示しているとお考えください。

また、変動率を考慮しないのは、個別に金額を把握していることに加え、支出の時期が遠い将来ではないためであると考えてください。

⑤ 生命保険料

「6. 加入している生命保険・医療保険」に記されている保険期間に応じて、「2. 現在の収支状況 ②現在の支出」に示された金額を対策前キャッシュフロー表に記入します。

なお、生命保険料に変動率を考慮しないのは、保険料は加入時点の契約で決まっており、その後の物価上昇に連動して保険料が増額することがないからです。

⑥ 損害保険料

火災保険は対策前キャッシュフロー表の最後の年度(2050年)まで年額保険料を記入します。なぜなら、現在の住まいに住み続ける限り、火災保険と地震保険は必要であり、支出の時期・金額の欄にも「今後も継続の予定」と記されているからです。

ただし、自動車保険は、年額保険料を対策前キャッシュフロー表の2042年(廃車の予定年度、下記⑧参照)まで記入します。火災保険とは異なり、自動車保険は自動車に乗らなくなれば解約することになるため、最終年度(2050年)までの記入は不要です。

⑦ 車の維持費

車の維持費は、自動車保険料と同様、対策前キャッシュフロー表の2042年(廃車の予定年度、下記⑧参照)まで記入します。

⑧ 車の買換え

課題の資料には明示されていませんが、2036年における最後の買換えから6年間車を使用して、2042年に廃車とする想定で対策前キャッシュフロー表を作成します。

⑨ レジャー費

定年退職は2026年1月の予定です。したがって、その年から10年間(2035年まで)にわたって対策前キャッシュフロー表にレジャー費を記入します。なお、年額の50万円は、夫婦2人分の予算と考えてください。

⑩ 結婚資金援助

対策前キャッシュフロー表には現在価値に変動率を考慮した将来価値で記入を行います。

⑪ バリアフリー化工事

対策前キャッシュフロー表には現在価値に変動率を考慮した将来価値で記入を行います。

4. 保有している財産

(1) 金融商品

総額1,000万円の金融商品を収益性・安全性・流動性の観点から分類すると次のようになります。

- ・収益性の高い商品…外貨建MMFと株式投信の合計300万円
- ・安全性の高い商品…定期預金と定額貯金の合計580万円
- ・流動性の高い商品…普通預金の120万円

(2) 不動産、その他

車の備考に「中古車両としての売却価格です。」とあるのは、車にも換金価値があることを示唆しています。つまり、このコメントから、自動車は資産の一部として個人バランスシートへ計上することが必要となります。

「なお、車の買換えに伴う下取り価格はないものとします。」とあるのは、最初の車の買換えにあたり、対策前(対策後)キャッシュフロー表において、買換えに関する支出額から 30 万円を控除する必要はないことを意味しています。

5. 住宅ローン

完済が 2030 年 12 月であることから、定年後も住宅ローンの返済が続くことを把握しておきましょう。

また、団体信用生命保険に加入しているため、神田さんが死亡したり高度障害を負った場合には、住宅ローンの残債は保険金で清算され、遺族に住宅ローンが引き継がれないことを把握しておきましょう。

6. 加入している生命保険・医療保険

この部分に記されている保険期間に応じて、「2. 現在の収支状況 ②現在の支出」に示された金額を対策前キャッシュフロー表に記入します。

また、いやし保険の解約返戻金 460 万円は 2020 年 12 月 31 日に解約した場合に現金で受け取れるものであり、預貯金などの金融資産と同様に、個人バランスシートにおいて資産の1つとして扱います。

7. 死亡退職金

55 歳時の死亡退職金が 1,800 万円であることは、「神田太郎さんの必要死亡保障額」の算出上で考慮することになります。

詳細はテキストの解説 (p.58～60) を参照してください。

8. 加入している火災保険・自動車保険

ひな型においては、損害保険は現状のまま問題がないとしています。したがって、損害保険の見直しは不要とします。

しかし、皆さんとしては損害保険の見直しを勧めたいという場合もあるでしょう。その場合に、建物の構造や所在地が不明だと、火災保険や地震保険の見直しができなくなってしまいます。そこで、最低限の情報として、建物の構造がH構造(非耐火構造:木造など)であり、所在地が東京都(地震保険の3等地)であることを明らかにしています。

なお、自動車保険についても見直しが必要な場合は、自動車の初年度登録年月日、排気量など詳細な情報が必要になります。ただし、この課題では自動車保険の見直しは特に不要であるとの立場から詳細な情報は提示していません。あらかじめご承知おきください。

また、自動車保険の備考にある「花子様、二郎様は免許なし」というコメントは、太郎さんが今亡くなった場合には神田家には車を運転する人がいないことを意味しています。

■ B . 面談で入手した相談内容の要点

本来、顧客の夢やプランニングに関する要望などは、面談を通じて聞き取ることになります。つまり、ファイナンシャル・プランナーとして面談時に記録したメモが「B. 面談で入手した相談内容の要点」として与えられていると想定し、提案書の作成に取り組むようにしてください。

1. 定年後のライフスタイルについて

「足りるかどうか心配」とか、「どのような対策をとったらよいか」という表現がとられています。

これは、漠然とした不安を明確にして欲しい、具体策を示して欲しいという「顧客の要望」であることを理解の上、それに応えるべく提案するという意識を持つようにしてください。

2. 保険関係の見直しについて

死亡保障の必要性や保障額の過不足は、必要死亡保障額を算定し、これに基づいて判断します。

また、「特に、夫の医療保障が60歳で満期になることが心配」と顧客が申し出ています。したがって、医療保障については必ず現状分析とそれに基づく問題点の有無、そして、対策の提示を行わなければなりません。

提案書の採点上、医療保障の見直しが十分に検討されていない場合は大減点となります。ご注意ください。

3. 運用方法について

現在の貯蓄の運用方法については、次の視点から考えます。そして、問題点を見つけて対策を提案してください。

- ・現在の貯蓄の組み合わせを継続すべきか、組み合わせを変えるべきか。
- ・運用率0.5%の条件下で貯蓄を継続するのか、有効な使い道を見つけ貯蓄を取り崩すべきか。

続いて、退職金の運用方法ですが、安全性を重視した運用を心掛けるべき旨を指摘しましょう。なぜなら、老後は現役時代に比べ定期的な収入が公的年金だけとなり、リスクの許容度が大きく低下するためです。退職金は老後の生活を支える大切な資金ですから、こういった点を踏まえた提案をするのが適当です。

4. その他に気が付いた点について

その他に気が付いた点をアドバイスして欲しいという相談です。

これについては、ライフイベント表や対策前キャッシュフロー表を作成して分かったこと、すなわち、キャッシュフロー分析などを通じて、ファイナンシャル・プランナーが新たに見つけた顧客の家計の問題点を指摘することになります。

なお、ファイナンシャル・プランナーが新たに見つけた顧客の家計の問題点とは、言い換えれば、相談時において顧客が気づいていなかった家計の問題点です。

IV 作成見本

提案書の完成形がイメージしやすいように、全体を通した作成見本を掲載します。

提案書を作成する上での注意点もいくつか補足していますので、参考にしてください。

神田 太郎 様

ライフプランのご提案

～より豊かなセカンドライフを過ごすために～

第1回 提案書

作成見本では医療保険の見直しは架空の保険会社で行っています。

皆さんが作成する提案書では、実在する保険会社のホームページやパンフレットを参考に見直しを行うようにしてください。

2000年00月00日

作成者 2級ファイナンシャル・プランニング技能士
大原 学

目次

はじめに	1ページ
1. 神田様ご一家のプロフィール	2ページ
(1) 家族構成	
(2) 現在の収支状況と将来の収支予測	
(3) 保有している財産	
(4) 住宅ローン	
(5) 加入している生命保険・医療保険	
(6) 加入している火災保険・自動車保険	
2. 神田様ご一家の夢・ご要望	〇ページ
(1) 定年後のライフスタイルについて	
(2) 保険関係の見直しについて	
(3) 運用方法について	
(4) その他に気が付いた点について	
3. 神田様ご一家のライフイベント表	〇ページ
4. 現状分析と問題点の整理	〇ページ
(1) キャッシュフロー分析	
(2) 個人バランスシート分析	
(3) 保障分析	
(4) 税金分析	
(5) 問題点の整理	
5. 問題点に対する解決策	〇ページ
(1) 解決策① 住宅ローンの完済時期の見直し（繰上返済）	
(2) 解決策② 太郎様の生命保険契約の見直し	
(3) 解決策③ 花子様の生命保険契約の見直し	
(4) 解決策④ 車の買換え時期・購入費用の見直し	
6. 解決策を導入することにより得られる効果	〇ページ
(1) キャッシュフローでの改善効果	
(2) 個人バランスシートでの改善効果	
(3) 保障面での改善効果	
(4) 実現できる神田様ご一家の夢・ご要望	
おわりに	〇ページ
添付資料	〇ページ
・ 可処分所得の求め方	
・ 公的年金	
・ 退職金の手取額の求め方	
・ 対策前のキャッシュフロー表	
・ 対策後のキャッシュフロー表	

作成見本のため、ページ数は
入れていません。

はじめに

先日はご多忙の中、貴重なお時間をいただき誠にありがとうございました。

神田様の現在の収支状況や将来の収支状況、資産・負債の現況、保障並びに今後のライフプランのご意向についてお話をお伺いし、ファイナンシャル・プランニング技能士として仕事ができる喜びと責任の大きさを改めて感じております。

ご存知のとおり、金融の自由化により金融商品、保険商品ともに多種多様になってきております。一昔前までの日本であれば、多くの人々がほぼ同じような貯蓄傾向の商品を選択したことと思います。以前は、画一化された金融商品も現在では多様化し、個人のライフデザインに応じて選択できる幅が広がっております。

また、2020年、日本では65歳以上の人口が3,600万人を超えるとともに少子化が進み、高齢者の比率が増え、年金を支える若者の構成比率がどんどん減ってきています。そのような社会状況の中にあって、自分の人生における希望を実現するためには、長期的・総合的なライフプランを考え立案し実行する事が必要不可欠な時代となってまいりました。ただ、現実問題として、今日の社会情勢の中でご自分に適する情報などを選択し立案していくのは、非常に難しいのが現実です。

そこで、ファイナンシャル・プランニング技能士である私が、神田様のご不安やご心配を少しでも取り除き、今後、安定したセカンドライフを送っていただき、そして夢の実現のために将来の収支状況を踏まえ、さまざまな角度から問題を分析しその解決策をご提案し、神田様に最適なプランを作成していきたく存じます。

この提案書が、神田様の今後の人生設計の一助になれば幸いに存じます。

20〇〇年〇〇月〇〇日

作成者 2級ファイナンシャル・プランニング技能士

必ず自署（手書き）してください。

大原学

1. 神田様ご一家のプロフィール（2020年12月31日現在）

(1) 家族構成

氏名	続柄	生年月日	年齢	職業	備考
神田 太郎 様	夫	1966(昭和41)年 1月15日	54歳	会社員	—
花子 様	妻	1967(昭和42)年 1月20日	53歳	専業主婦	—
一郎 様	長男	1995(平成 7)年 8月21日	25歳	会社員	独身・別居
二郎 様	次男	2003(平成15)年 3月19日	17歳	高校3年生	同居

(2) 現在の収支状況と将来の収支予測

① 現在の収支状況

a 現在の収入

項目	年間収入金額
給与収入・可処分所得（年間収入）	654万円（860万円） ※1

※1 添付資料 p.○参照

作成見本のため、ページ数は入れていません

b 現在の支出

項目	年間支出金額
基本生活費	284万円
住居費	住宅ローン 108万円 住宅維持費 24万円
教育費	63万円
生命保険料	ニコニコ生命 21万円 いやし保険 24万円 ほのぼの共済 2万円
損害保険料	火災保険 2万円 地震保険 2万円 自動車保険 5万円
車の維持費	25万円
合計	560万円

② 将来の収支予測

a 将来の収入予測

項目	時期	年間収入金額
給与収入	2021年～2025年	654万円 ※1
老齢基礎年金 太郎様	2031年～終身	77万円 ※2
老齢厚生年金 太郎様	2031年～終身	130万円 ※2
加給年金 太郎様	2031年	39万円 ※2
老齢基礎年金 花子様	2032年～終身	70万円 ※2
老齢厚生年金 花子様	2032年～終身	6万円 ※2
退職金	2026年	2,742万円 ※3
個人年金保険	2026年～2040年	52万円

※1 添付資料 p.○参照 ※2 添付資料 p.○参照 ※3 添付資料 p.○参照

作成見本のため、ページ数は入れていません。

b 将来の支出予測

項目	時期	年間支出金額	変動率	
基本生活費	2021年～終身	284万円	1%	※4、5
住宅ローン	2021年～2030年	108万円	—	
住宅維持費	2021年～終身	24万円	1%	※4
教育費	2021年 2022年～2024年	153万円 123万円	—	
生命保険料（ニクニコ生命）	2021年～2025年	21万円	—	※6
生命保険料（いやし保険）	2021年～2025年	24万円	—	※6
生命保険料（ほのぼの共済）	2021年～2031年	2万円	—	※6
損害保険料（火災保険）	2021年～終身	2万円	—	※6
損害保険料（地震保険）	2021年～終身	2万円	—	※6
損害保険料（自動車保険）	2021年～2042年	5万円	—	※6
車の維持費	2021年～2042年	25万円	1%	※4
車の買換え	2024年、2030年、2036年	200万円	1%	※4
レジャー費	2026年～2035年	50万円	1%	※4
結婚資金援助	2023年、2031年	100万円	1%	※4
バリアフリー化工事	2031年	300万円	1%	※4

※4 変動率考慮後の金額は、対策前のキャッシュフロー表を参照してください。

※5 二郎様が就職後は年間40万円を減額します。

※6 保険料は今後も定額とします。

(3) 保有している財産

① 金融商品

種類	名義	残高または時価
普通預金	太郎 様	120万円
定期預金	太郎 様	300万円
定期預金	花子 様	180万円
定額貯金	太郎 様	100万円
外貨建MMF	太郎 様	200万円
株式投信	太郎 様	100万円
合計		1,000万円

② 不動産、その他

種類	名義	時価
自宅（土地）	太郎 様	2,000万円
自宅（家屋）	太郎 様	1,500万円
車	太郎 様	30万円
合計		3,530万円

(4) 住宅ローン

借入先	残高	金利	返済条件など
水道橋銀行	1,000万円	全期間固定 1.6%	年間返済額108万円 完済は2030年12月 団体信用生命保険加入済み

(5) 加入している生命保険・医療保険

	ニッココ生命	いやし保険	ほのぼの共済
種類	定期保険 (疾病災害入院特約付)	個人年金保険 (税制適格)	基本タイプ
契約者	太郎様	太郎様	太郎様
被保険者	太郎様	太郎様	花子様
受取人	花子様	太郎様	太郎様
契約日	2016年1月	2001年1月	2020年1月
保険期間	2025年12月まで	払込期間 2025年12月まで	1年 (65歳まで自動更新)
保険金	死亡保険金 2,000万円 入院給付金 5,000円(日額)	15年確定年金 60歳から年額52万円	病気死亡共済金 60歳まで 400万円 65歳まで 200万円 入院共済金 5,000円(日額)
解約返戻金	なし	460万円 (2020年12月31日現在)	なし
保険料	月払い 17,400円 (主契約 13,600円) (特約部分 3,800円)	月払い 20,000円	月払い 2,000円

(6) 加入している火災保険・自動車保険

	火災保険	地震保険
契約日	2020年11月25日	2020年11月25日
保険期間	1年	1年
保険料	年払い 22,800円	年払い 23,480円
備考	保険金額 1,500万円 加入対象 建物のみ 建物構造 H構造	保険金額 建物保険金額の50% 所在地 東京都

	自動車保険
契約日	2020年7月10日
保険期間	1年
保険料	年払い 45,930円
備考	花子様、二郎様は免許なし

2. 神田様ご一家の夢・ご要望

(1) 定年後のライフスタイルについて

- ① 定年後は、ご夫婦で旅行に出掛けたり、趣味をして充実した日々を送りたいとお考えです。
- ② そのため、定年後の生涯の老後資金が足りるかどうかをご心配されています。
- ③ 定年後の資金が不足する場合、今からできる対策についてアドバイスを求められています。

(2) 保険関係の見直しについて

- ① 太郎様の死亡保障について、その必要性の有無をお尋ねです。
- ② ご夫婦の医療保障について、見直しの有無をお尋ねです。
特に、太郎様の医療保障が60歳で満期になることをご心配されています。

(3) 運用方法について

- ① 現在の貯蓄の運用方法について、アドバイスのご要望がございました。
- ② 退職金の運用方法について、アドバイスのご要望がございました。

(4) その他に気が付いた点について

- ① 今後、車の買換えを3回（1回当たりの予算額200万円）ご予定されています。

3. 神田様ご一家のライフイベント表

西暦	ご家族の年齢				ご家族のイベント			
	太郎様	花子様	一郎様	二郎様	太郎様 (家族全体)	花子様	一郎様	二郎様
2020年	54歳	53歳	25歳	17歳				
2021年	55歳	54歳	26歳	18歳				大学
2022年	56歳	55歳	27歳	19歳				
2023年	57歳	56歳	28歳	20歳			結婚	
2024年	58歳	57歳	29歳	21歳	車買換			
2025年	59歳	58歳	30歳	22歳				卒業
2026年	60歳	59歳	31歳	23歳	定年退職 レジャー 個人年金受給			
2027年	61歳	60歳	32歳	24歳	レジャー 個人年金受給			
2028年	62歳	61歳	33歳	25歳	レジャー 個人年金受給			
2029年	63歳	62歳	34歳	26歳	レジャー 個人年金受給			
2030年	64歳	63歳	35歳	27歳	レジャー ローン完済 車買換 個人年金受給			
2031年	65歳	64歳	36歳	28歳	公的年金受給開始 レジャー バリアフリー化工事 個人年金受給			結婚
2032年	66歳	65歳	37歳	29歳	レジャー 個人年金受給	公的年金 受給開始		
2033年	67歳	66歳	38歳	30歳	レジャー 個人年金受給			
2034年	68歳	67歳	39歳	31歳	レジャー 個人年金受給			
2035年	69歳	68歳	40歳	32歳	レジャー 個人年金受給			
2036年	70歳	69歳	41歳	33歳	車買換 個人年金受給			
2037年	71歳	70歳	42歳	34歳	個人年金受給			
2038年	72歳	71歳	43歳	35歳	個人年金受給			
2039年	73歳	72歳	44歳	36歳	個人年金受給			
2040年	74歳	73歳	45歳	37歳	個人年金受給			
2041年	75歳	74歳	46歳	38歳				
2042年	76歳	75歳	47歳	39歳	廃車			
2050年	84歳	83歳	55歳	47歳				

4. 現状分析と問題点の整理

(1) キャッシュフロー分析

① 現状の収支分析について

a 現在の収支状況が、黒字（貯蓄可能額がある状態）かどうかの検討

収入合計（可処分所得）が654万円に対して、支出合計は560万円です。年間収支差額は94万円の黒字となりますので、貯蓄可能額が確保されており、問題はありません。

収入	可処分所得	654万円
	合計	654万円
支出	基本生活費	284万円
	住宅ローン	108万円
	住宅維持費	24万円
	教育費	63万円
	生命保険料	47万円
	損害保険料	9万円
	車の維持費	25万円
	合計	560万円
収支差額		94万円

b 支出の各項目についての検討

・消費支出について

「家計調査年報（2019年、総務省）」による勤労者世帯の年齢階級別収支（50歳～59歳）に照らして、神田様ご一家の消費支出の水準を検討した結果は、下表のとおりです。

現状の消費性向は平均値を下回っており、問題はないと考えられます。なお、二郎様が大学に進学されると教育費が増加するため、消費性向の悪化が予想されます。

項目	家計調査	神田様ご一家
世帯人数	3.16人	3人
可処分所得（月額：A）	54.1万円	54.5万円
消費支出（月額：B）	36.3万円	33.0万円※
消費性向（B/A）	67.1%	60.6%

※年間支出から、住宅ローンと保険料を除いた金額をもとに計算

・住宅ローンの支払額について

住宅ローンの年間返済額は、一般に年収の25%程度が限度であると言われていています。神田様の場合、215万円（＝年収860万円×25%）が限度額となりますが、現状の年間返済額は限度額以内ですので問題はありません。

・保険料の支払額について

必要死亡保障額がマイナスとなるため、ニコニコ生命の契約は継続する必要性が乏しいと判断いたします。詳細は、p.○の保障分析でご説明いたします。

作成見本のため、ページ数は入れていません。

② 将来の収支分析について

一部の年度を除き、年間収支は継続的な赤字となるため、貯蓄の取り崩しで赤字分を補てんする状態が続きます。その結果、2042年から貯蓄残高はマイナスに転じます。そして、現在から30年後、2050年には、貯蓄のマイナスが累計574万円に達します。

年間収支の赤字が継続する原因は、支出に関して、その金額や時期に問題があるためと考えられます。

住宅ローンは2030年12月に完済予定となっていますが、定年退職後、完済時までに見込まれる神田様ご一家の定期的な収入は定年後の5年間で52万円ですので、住宅ローンの返済は、相当な負担増になることが考えられます。

また、車の買換えは、6年ごとに200万円を見積もられておりますが、総額600万円の支出も赤字の大きな原因となっています。

現状のままでは、2042年以後の老後資金が底を尽いてしまいますので、支出面からの改善が必要であるといえます。

年間収支や貯蓄残高の推移は、対策前のキャッシュフロー表（添付資料p.○）をご参照ください。

(2) 個人バランスシート分析

① 資産および負債のバランスについて

a 個人バランスシートを作成した結果、債務超過になっていないかどうかの検討

下記の個人バランスシートのとおり、資産合計から負債合計を差し引いて算出される純資産（正味の手持ち財産）の金額は3,990万円です。債務超過の状態ではなく、問題はありません。

個人バランスシート

資産	金額	負債・純資産	金額
金融資産		住宅ローン	1,000万円
普通預金	120万円	負債合計	1,000万円
定期預金	480万円		
定額貯金	100万円		
外貨建MMF	200万円		
株式投信	100万円		
生命保険	460万円	純資産	3,990万円
不動産・動産			
自宅（土地）	2,000万円		
自宅（家屋）	1,500万円		
車	30万円		
資産合計	4,990万円	負債・純資産合計	4,990万円

作成見本のため、ページ数は入れていません。

b その他

住宅ローンの返済期間が残り10年あり、2030年12月に完済予定となっています。

定年退職後は収入が大幅に減少すること、また、住宅ローン金利が1.6%（固定金利）に対して、貯蓄残高の運用予定率が0.5%であることを考えますと、定年時までに住宅ローンを完済するのが望ましいといえます。

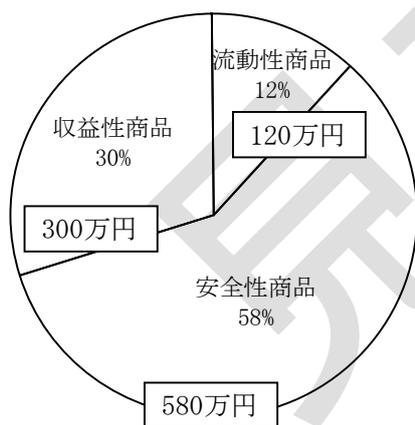
そのためには、現在の住宅ローンの一部を繰上返済し、返済期間を短縮する必要があります。

② 金融資産のバランスについて

金融資産の構成は、収益性、安全性、流動性のバランスを図ることに加え、太郎様の年齢を考慮することが大切です。

現在の金融資産の構成は、下記のグラフのとおりです。老後資金は、安全性を重視した運用が望まれますが、安全性商品の割合は58%であり、問題はありません。また、老後資金については、病気などの緊急時にすぐに引き出せる資金（流動性商品）を多めに確保しておくことも大切です。神田様の場合、定額貯金100万円は6ヵ月経過後であればいつでも引き出せますので、流動性にも問題はありません。

以上のとおり、全体的な金融資産のバランスについて問題はないと考えられます。



(3) 保障分析

① 生命保険契約（死亡保障）について

太郎様が55歳時に亡くなられたと仮定した場合の必要死亡保障額を下記のとおり算出いたしました。

必要死亡保障額は「-1,357万円」であり、マイナスの金額として算定されています。必要死亡保障額は、将来に予定される収入額の方が支出額より多い場合にマイナスとなります。マイナスの場合は、死亡保険は必要ではないことを意味しますので、ニコニコ生命の定期保険は解約しても問題がないことになります。

(参考) 太郎様の必要死亡保障額の算出 (太郎様が55歳で亡くなられたと想定)

支	①生涯生活費	死亡時の基本生活費×70%×二郎様大学卒業まで (5年間) 284万円×70%×5年間	4,532万円
		減額後の基本生活費×50%×(花子様の平均余命-5年間) (284万円-40万円)×50%×(34年間-5年間)	
	②住宅維持費	住宅維持費×花子様の平均余命 (24万円×34年間)	816万円
	③保険料	花子様の保険料 (2万円×12年間) 損害保険料 (4万円×34年間)	160万円
	④教育費	二郎様の大学授業料など (153万円+123万円×3年間)	522万円
	⑤予備費	結婚資金援助 (100万円×2人)	200万円
		レジャー費 (50万円×1/2×10年間)	250万円
バリアフリー化工事費		300万円	
支出合計 (A)			6,780万円
収	公的年金	①遺族厚生年金 81万円×34年間	2,754万円
		②中高齢寡婦加算 59万円×11年間	649万円
		③老齢基礎年金 67万円×22年間	1,474万円
	④預貯金残高	太郎様死亡時の貯蓄残高 (2020年末)	1,000万円
	⑤個人年金保険	解約返戻金 (2020年末)	460万円
	⑥死亡退職金	今回の提案では、1,800万円と仮定しています	1,800万円
収入合計 (B)			8,137万円
必要死亡保障額 (A-B)			-1,357万円

(注) 太郎様の死亡想定時 (55歳) の花子様の年齢は54歳、現在54歳の女性の平均余命は約34年 (令和元年の簡易生命表より) として計算しています。なお、万円未満は四捨五入し、変動率を考慮する金額も現在価値で計算しています。

② 生命保険契約（医療保障）について

a 太郎様の医療保障

現在加入されているニコニコ生命の定期保険を解約された場合、医療特約（日額5,000円の入院給付金）も同時に解約となります。老後を迎えるにあたり、医療保障は必要ですので、新たに独立型の医療保険などへの加入を検討する必要があります。

b 花子様の医療保障

現在加入されているほのぼの共済（基本タイプ）は、2032年（花子様が65歳）に満期を迎えることになり、その後の医療保障がなくなります。この点につきましては、太郎様の医療保険の加入と合わせて検討いたします。

③ 損害保険契約について

a 火災保険と地震保険

火災保険は、時価を保険金額として加入されておりますので、問題はありません。ただし、築年数が経過するほど時価は下落するため、万一、火災などの被害が発生した場合には、再建築に必要な資金を火災保険で確保できなくなる可能性があります。その対策としては、価額協定保険特約（再建築に必要な金額を基準に保険金を支払う契約）があります。詳しい資料を用意しておりますので、ご要望の場合はお申し付けください。

また、建物について加入している地震保険は、加入限度額（建物の保険金額の50%）まで加入されておりますので、このまま継続することをお勧めします。

b 自動車保険

現在加入している自動車保険については、特に問題はありません。このまま継続することをお勧めいたします。

ただし、最近では「家族限定保険（リスク細分型保険）」など、各社とも特色ある保険を発売していますので、車の買換えなどの際には、一度見直しすることをお勧めします。

(4) 税金分析

① 相続税対策について

相続税の対策を講じる必要があるか否かは、太郎様が現在保有する財産の金額と相続税計算上の「遺産に係る基礎控除額」とを比較する必要があります。遺産に係る基礎控除額は、次のとおり求めます。

$$\text{遺産に係る基礎控除額} = 3,000\text{万円} + 600\text{万円} \times \text{法定相続人の数}$$

太郎様が亡くなられた場合、太郎様の財産を引き継ぐ法定相続人は、花子様とご子息2人となり、上記の算式中、法定相続人の数は3（人）となりますので、遺産に係る基礎控除額は下記のとおり算定されます。

$$\text{遺産に係る基礎控除額 (4,800万円)} = 3,000\text{万円} + 600\text{万円} \times 3$$

太郎様が現在保有されている財産の金額は、前述の個人バランスシートより4,810万円（花子様名義分の定期預金180万円を除く）となり、遺産に係る基礎控除額である4,800万円とほぼ同額となります。

したがって、現時点では、相続税の心配はありませんが、今後財産が増加するようであれば、改めてご相談に応じて参ります。

② 贈与税対策について

財産の贈与を受ける受贈者単位で、年間110万円の基礎控除額を超える贈与には贈与税が課されます。ご子息への結婚資金援助は、贈与税の基礎控除額を概ね下回ることが予想されますので、これについては対策の必要はありません。

③ その他の税金対策について

特にありません。

(5) 問題点の整理

以上の分析結果から問題点を重要度の高い順に挙げると、次のようになります。

- 問題点① 住宅ローンの完済時期の見直し
- 問題点② 太郎様の生命保険契約の見直し
- 問題点③ 花子様の生命保険契約の見直し
- 問題点④ 車の買換え時期・購入費用の見直し

5. 問題点に対する解決策

(1) 解決策① 住宅ローンの完済時期の見直し（繰上返済）

現在の貯蓄残高や太郎様の定年まで期間を勘案し、住宅ローンの返済期間を5年間短縮することをご提案いたします。

具体的には、まず元本保証のない株式投信100万円、外貨建MMF 200万円を売却し、残りの180万円は定期預金を利用することで合計480万円を繰上げ返済のため取り崩します。

この結果、2025年には住宅ローンが完済し、60万円の利息負担額を軽減することが可能となります。

現在の住宅ローン

住宅ローン残高	1,000万円
固定金利	1.6%
年間返済額	108万円
残存期間	10年

一部繰上返済後の住宅ローン

住宅ローン残高	520万円
固定金利	1.6%
年間返済額	108万円
残存期間	5年

(参考) 利息軽減額（万円未満は四捨五入）

- 繰上返済額の算定

住宅ローン償還予定表の2021年から2025年の5年間に支払う元金部分、480万円を繰上返済します。

- 現在の住宅ローン返済額合計

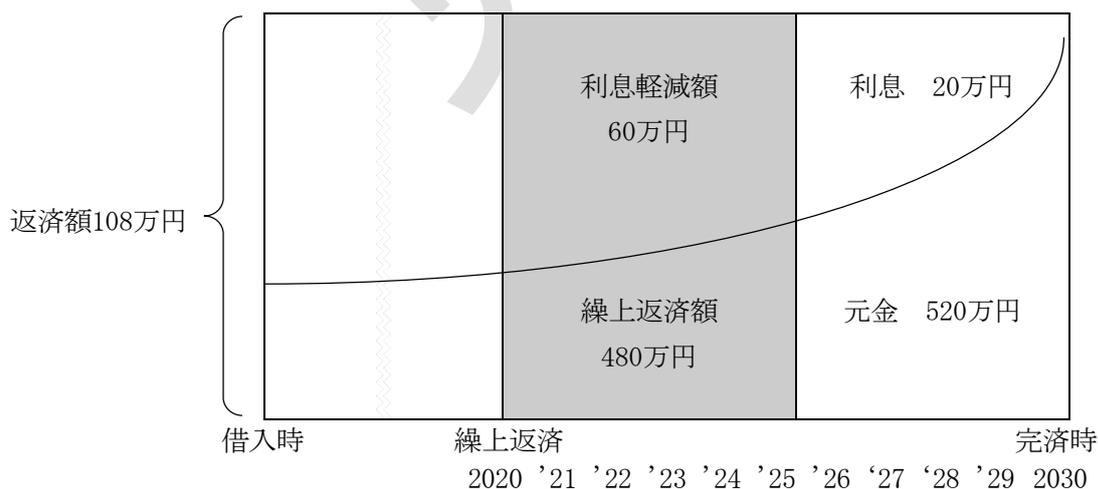
$108\text{万円} \times 10\text{年} = 1,080\text{万円}$

- 繰上返済後の住宅ローン返済額合計

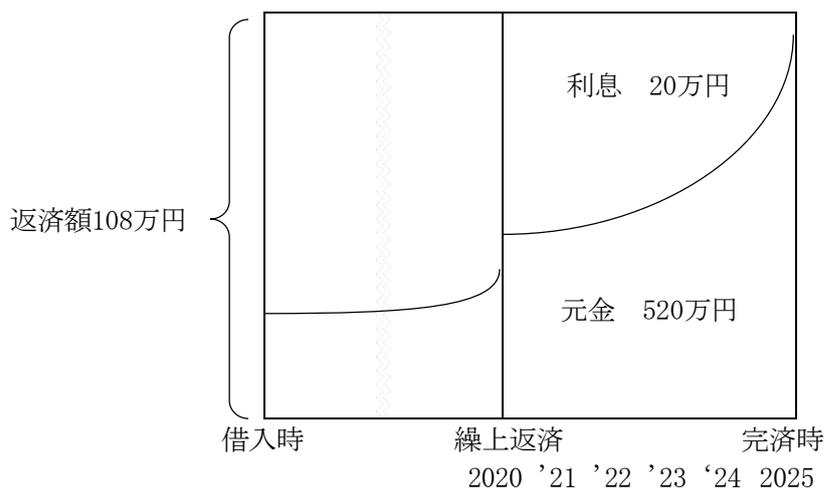
$108\text{万円} \times 5\text{年} = 540\text{万円}$

- 利息負担額の軽減

$(1,080\text{万円} - 540\text{万円}) - 480\text{万円} = 60\text{万円}$



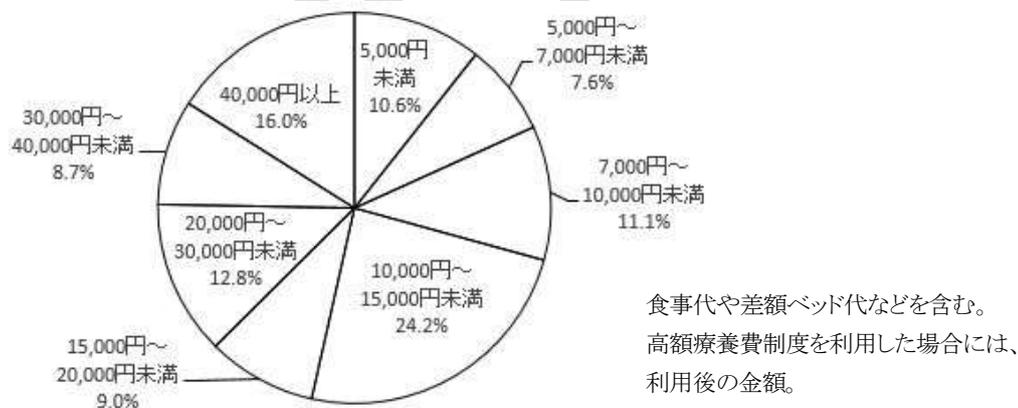
↓ 繰上返済後（次ページ参照）



(2) 解決策② 太郎様の生命保険契約の見直し

- a ニコニコ生命の定期保険を解約し、以後105万円（=21万円×5年）の赤字削減に取り組むことをご提案します。
- b 定期保険契約の解約に伴い、医療保険の見直しが必要となります。

生命保険文化センターの生活保障に関する調査（令和元年度）によれば、1日当たりの自己負担費用の平均は23,300円となっています。また、費用の分布は「10,000円～15,000円未満」が24.2%と一番多くなっています。



上記データでは1日あたりの自己負担費用の平均が23,300円となっていますが、高額療養費制度を利用しない場合を含めた金額であり、また、高齢者の医療制度があるため、実質負担額はこの金額を下回ると思います。

たとえば、すこやか生命の終身医療保険（次ページ参照）に加入した場合の保障内容は次のとおりであり、それと同程度の保障内容の医療保険に加入していただくことがよいと思います。

見本に示した「すこやか生命」は実在しません。必ず、実在する保険会社の実在する保険商品を提案してください。

特長・保障内容

1. 保険料は60歳で払済みとなるため、それ以降の支払いはなし。
2. 病気・ケガの保障は一生涯。
3. 1回の入院は最高60日、通算1,000日まで保障。
 - ① 疾病・災害入院給付金…1日につき5,000円×入院日数
 - ② 手術給付金…1回につき10万円（支払限度なし）
4. 55歳男性の年払い保険料…205,731円（60歳払込満了）

(3) 解決策③ 花子様の生命保険契約の見直し

ほのぼのの共済の共済期間は65歳までとなっており、太郎様と同様にこれからの高齢化時代を考慮しますと、終身医療保険に変更することをお勧めします。

太郎様と同じ特長・保障内容の保険に加入した場合、年払い保険料は164,885円（60歳払込満了）となります。

(4) 解決策④ 車の買換え時期・購入費用の見直し

ご存知のとおり、車検期間は新車購入時から3年、それ以降は2年となります。また、高齢者ドライバーの事故の増加への対策として、免許の更新期間が満了する日の年齢が70歳以上の場合は、更新前の講習が義務づけられるなど、高齢者が車を運転する場合にはいろいろと注意が必要となっております。

そこで、車の買換え期間を6年から7年に延長していただき、70歳での買換えを中止し、今後は2回の買換えにすることで「350万円（＝600万円－150万円－100万円）の赤字削減」が可能となります。

また、今後はご家族4人で同乗する機会も少なくなると予想されますので、小型自動車もしくは軽自動車への買換えをご提案いたします。なお、軽自動車などに乗り換える場合は、税金や維持費の面でも有利となりますので、ご検討いただければと存じます。

今後の買換え予算は、2024年が150万円（現在価値）、2031年が100万円（現在価値）を想定しております。

また、車の維持費は、最初の買換え後は現状の80%、2度目の買換え後は現状の60%と見込んで計算しています。いずれも、変動率考慮後の金額は、対策後のキャッシュフロー表でご確認ください。

なお、自動車保険の保険料は、現状のままとしておりますので、軽自動車などへ買換えた場合には、減額の余地があります。

今回の提案以外にも、買替えの回数や買替えの期間、購入金額には様々なパターンが考えられますので、どのパターンが年間収支を改善するために最も好ましいのかを検討し、提案してください。

また、車の維持費については、厳密な計算は不要ですので、見本のように、現状の80%、60%といったような概算額で計算してください。

6. 解決策を導入することにより得られる効果

(1) キャッシュフローでの改善効果

下記のとおり、561万円の支出削減が可能となります。

削減できる支出額を現在価値ベースで算出するため、対策前と対策後の支出額は、**変動率を考慮する前の金額**で記載します。

解決策の内容		対策前	対策後	改善金額
解決策①	住宅ローンの繰上返済	1,080万円	1,020万円	60万円
解決策②	太郎様の生命保険契約の見直し（ニココ生命）	105万円	0万円	105万円
	終身医療保険（すこやか生命）	0万円	105万円	-105万円
解決策③	花子様様の生命保険契約の見直し（ほのぼの共済）	22万円	0万円	22万円
	終身医療保険（すこやか生命）	0万円	96万円	-96万円
解決策④	車の買換え時期・購入費用の見直し	600万円	250万円	350万円
	車の維持費	550万円	345万円	205万円
	自動車保険	110万円	90万円	20万円
合計		2,467万円	1,906万円	561万円

※ 変動率考慮後の金額は、対策後のキャッシュフロー表を参照してください。

(2) 個人バランスシートでの改善効果

見本に示した「すこやか生命」は実在しません。必ず、実在する保険会社の実在する保険商品を提案してください。

解決策の導入により、下記のとおり純資産を維持したまま、高金利の負債を減額することができました。

個人バランスシート

資産	金額	負債・純資産	金額
金融資産		住宅ローン	520万円
普通預金	120万円	負債合計	520万円
定期預金	300万円		
定額貯金	100万円		
生命保険	460万円		
不動産・動産		純資産	3,990万円
自宅（土地）	2,000万円		
自宅（家屋）	1,500万円		
車	30万円		
資産合計	4,510万円	負債・純資産合計	4,510万円

(3) 保障面での改善効果

必要死亡保障額の算出結果に基づき、死亡保障の見直しとして定期保険の解約をご提案いたします。

また、ご要望にございました医療保障の見直しにつきましては、終身医療保険への加入を提案しました。ぜひ、ご検討ください。

(4) 実現できる神田様ご一家の夢・ご要望

神田様からお聞きした夢やご要望については、今後、何も対策を講じなければ2050年（30年後）には、貯蓄残高の赤字累計額は574万円となり、実現が困難な状況になることが予測されました。

問題点の分析から、主に支出の面に大きな問題があることが判明しましたので、これらの問題点を解決するための対策を、優先順位の高いものから4つ提案しております。

この解決策を実行に移した場合には、2050年（30年後）の貯蓄残高は103万円の黒字に転換することが可能となります。

老後に必要な貯蓄を残し、豊かな生活を送る上で、これらの解決策の実施を是非ともご検討ください。

さて、現在の貯蓄額のおよそ半額を取り崩し、住宅ローンの繰上返済に利用しましたが、これも貯蓄の運用方法の一形態であることをご理解ください。つまり、支出（金利の支払い）を減らす（繰上返済による金利負担軽減）ことで、将来の貯蓄残高は増加ないし目減り減少に転じることになり、それは金融商品の運用によって運用収益を得るのとまったく同じ効果を生むことになるということです。

また、将来受け取る退職金は、老後の生活資金の中心になるものですから、安全性を重視した運用を心掛けていただきたいと存じます。太郎様の年齢とこれからの日本経済の動向を考えますと、元本が保証され、金利上昇の恩恵にもあずかることの出来る商品、例えば、個人向け国債などによる運用がお勧めです。

おわりに

この提案書をご覧いただきまして、神田様ご一家の現状と今後の展望について把握していただけたかと存じます。

ご提案いたしました解決策は、神田様ご一家の夢・ご要望を実現するために、さまざまなデータを基に調査・比較し、現状の分析から導いたものです。

この解決策のメリットは、住宅ローンの繰上返済、死亡保障や医療保障の見直しを通じて、支出面の改善を図り、老後の生活資金を確保できる点にあります。しかし、車の買換えの時期や予算について、神田様のご希望に添えない面もあり、その点はデメリットであると思います。

つきましては、ご家族の皆様で十分にご検討のうえ、神田様にとって納得のいく方法でファイナンシャル・ゴール（目標）を達成していただきたいと存じます。

なお、このプランは、現時点の神田様のライフイベントやご要望、経済環境、そして法制度を前提に作成しておりますので、ライフイベントに変更があった場合などにはプランの見直しが必要になってきます。これらのライフイベントの変更や経済環境の変化などに対するご相談がございましたら、いつでもお気軽に連絡をいただければと思います。

また、プランの実行にあたりましては、私やスタッフがその支援をさせていただきますが、より専門的な分野につきましては、弊社事務所と提携関係にある税理士事務所や弁護士事務所をご紹介します。専門家の紹介が必要な場合は、いつでもお申し付けください。

最後に、このプランが神田様ご一家のライフプランの実現に少しでもお役に立つことを願ってやみません。そして、今後も末永くお付き合いをさせていただければ幸いに存じます。

20〇〇年〇〇月〇〇日

作成者 2級ファイナンシャル・プランニング技能士
大原 学

添付資料

・可処分所得の求め方

・給与所得控除額

860万円 > 850万円 ∴ 195万円（上限）

・給与所得

860万円 - 195万円 = 665万円

・所得控除

48万円（基礎控除） + 38万円（配偶者控除） + 38万円（扶養控除）
+ 12万円（生命保険料控除） + 2万円（地震保険料控除）
+ 130万円（社会保険料控除） = 268万円

・課税総所得金額

665万円 - 268万円 = 397万円

・税金（所得税・住民税）

397万円 × 30% - 42.75万円 = 76.35万円

・可処分所得

860万円 - 130万円 - 76.35万円 = 654万円（万円未満四捨五入）

（参考）給与所得控除額の速算表

給与の収入金額（A）	給与所得控除額
180 万円以下	(A) × 40% - 10万円（最低55万円）
180 万円超 360 万円以下	(A) × 30% + 8万円
360 万円超 660 万円以下	(A) × 20% + 44万円
660 万円超 850 万円以下	(A) × 10% + 110万円
850 万円超	195万円（上限）

（参考）所得税・住民税合算税額速算表（抄）

課税総所得金額	税率	控除額
195 万円以下	15%	—
195 万円超 330 万円以下	20%	9.75万円
330 万円超 695 万円以下	30%	42.75万円
695 万円超 900 万円以下	33%	63.6万円
900 万円超 1,800 万円以下	43%	153.6万円

※ 復興特別税については考慮しないものとします。

・退職金の手取額の求め方

・退職所得控除額

$$800\text{万円} + 70\text{万円} \times (39\text{年}^{\ast} - 20\text{年}) = 2,130\text{万円}$$

※ 勤続年数に1年未満の端数がある場合は1年として計算するため39年となります。

・退職所得の金額

$$(2,800\text{万円} - 2,130\text{万円}) \times 1/2 = 335\text{万円}$$

・税金（所得税・住民税）

$$335\text{万円} \times 30\% - 42.75\text{万円} = 57.75\text{万円}$$

・退職金の手取額

$$2,800\text{万円} - 57.75\text{万円} = 2,742\text{万円} \text{（万円未満四捨五入）}$$

（参考）退職所得控除額の速算表

勤続年数	退職所得控除額
20年以下	40万円×勤続年数（最低80万円）
20年超	800万円+70万円×（勤続年数-20年）

（参考）所得税・住民税合算税額速算表（抄）

課税総所得金額	税率	控除額
195 万円以下	15%	—
195 万円超 330 万円以下	20%	9.75万円
330 万円超 695 万円以下	30%	42.75万円
695 万円超 900 万円以下	33%	63.6万円
900 万円超 1,800 万円以下	43%	153.6万円

※ 復興特別税については考慮しないものとします。

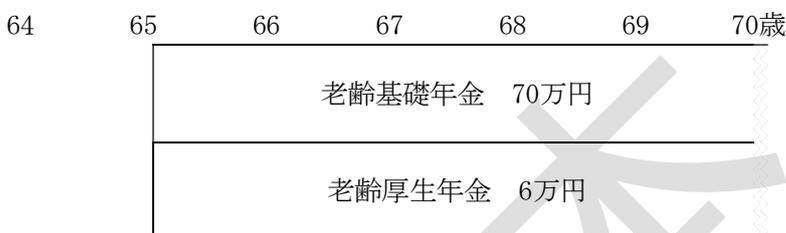
・ 公的年金

① 年金の全体像

a 太郎様 (1966(昭和41)年1月15日生まれ)



b 花子様 (1967(昭和42)年1月20日生まれ)



② 公的年金の内訳

a 太郎様

・ 65歳の年金

老齢基礎年金	77万円
老齢厚生年金	130万円
加給年金	39万円

・ 66歳以降の年金

老齢基礎年金	77万円
老齢厚生年金	130万円

b 花子様

・ 65歳以降の年金

老齢基礎年金	70万円
老齢厚生年金	6万円

添付資料

対策前のキャッシュフロー表

(単位:万円)

西暦	経過年数																						
	現在	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	
家族年齢																							
神田 太郎様	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74		
花子様	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73		
一郎様	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45		
二郎様	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37		
家族のイベント																							
神田 太郎様 (家族全体)																							
花子様																							
一郎様					結婚																		
二郎様			大学																				
給与収入	0.0%	654	654	654	654	654	654	654	654	654	654	654	654	654	654	654	654	654	654	654	654	654	
老齢基礎年金 太郎様	-																						
老齢厚生年金 太郎様	-																						
加給年金 太郎様	-																						
老齢基礎年金 花子様	-																						
老齢厚生年金 花子様	-																						
個人年金保険	-						52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52
退職金	-						2,742																
収入																							
収入合計		654	654	654	654	654	2,794	52	52	52	52	298	335	335	335	335	335	335	335	335	335	335	335
基本生活費	1.0%	284	287	290	293	296	298	299	262	264	267	270	272	275	278	280	283	286	289	292	295	298	298
住宅ローン	-	108	108	108	108	108	108	108	108	108	108	108	108	108	108	108	108	108	108	108	108	108	108
住宅維持費	1.0%	24	24	24	24	25	25	25	26	26	26	27	27	27	27	28	28	28	28	28	29	29	29
教育費	-	63	153	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123
生命保険料 (ニコニコ生命)	-	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21
生命保険料 (いやし保険)	-	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24
生命保険料 (ほのぼの共済)	-	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
損害保険料 (火災保険)	-	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
損害保険料 (地震保険)	-	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
損害保険料 (自動車保険)	-	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
車の維持費	1.0%	25	25	26	26	26	27	27	27	27	27	28	28	28	29	29	29	29	29	30	30	31	31
車の買換え	1.0%					208						221											
レジャー費	1.0%						53	54	54	54	55	55	56	56	57	57	58						
結婚資金援助	1.0%											112											
バリアフリー化工事	1.0%											335											
支出合計		560	653	627	734	842	513	483	488	490	494	720	841	395	403	407	587	356	360	363	367	367	
年間収支		94	1	27	-80	-188	141	2,311	-436	-438	-442	-668	-543	-60	-68	-72	-252	-21	-25	-28	-32	-32	
貯蓄残高 (運用率)	0.5%	1,000	1,006	1,038	963	780	925	3,241	2,821	2,397	1,967	1,309	773	717	657	592	523	274	254	230	203	172	
終価係数																							
		1.010	1.020	1.030	1.041	1.051	1.062	1.072	1.083	1.094	1.105	1.116	1.127	1.138	1.149	1.161	1.173	1.184	1.196	1.208	1.220	1.220	

(注)1. ご家族の年齢は、各年度末時点の満年齢で表示しています。

(注)2. 万円未満は四捨五入しています。

対策後のキャッシュフロー表

(単位:万円)

西暦	経過年数		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
	現在	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040
家族年齢																						
神田 太郎様	64	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	
花子様	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	
一郎様	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	
二郎様	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	
家族のイベント																						
神田 太郎様 (家族全体)																						
花子様																						
一郎様				結婚																		
二郎様							大学															
給与収入	0.0%	654	654	654	654	654	654	654	654	654	654	654	654	654	654	654	654	654	654	654	654	654
老齢基礎年金 太郎様	-																					
老齢厚生年金 太郎様	-																					
加給年金 太郎様	-																					
老齢基礎年金 花子様	-																					
老齢厚生年金 花子様	-																					
個人年金保険	-																					
退職金	-																					
収入合計		654	654	654	654	654	654	654	654	654	654	654	654	654	654	654	654	654	654	654	654	654
基本生活費	1.0%	284	287	290	293	296	298	299	262	264	267	270	272	275	278	280	283	286	289	292	295	298
住宅ローン	-	108	108	108	108	108	108	108	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25
住宅維持費	1.0%	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24
教育費	-	63	153	123	123	123	123	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21
生命保険料 (すこやか生命)	-	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21
生命保険料 (いやし保険)	-	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24
生命保険料 (すこやか生命)	-	2	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
損害保険料 (火災保険)	-	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
損害保険料 (地震保険)	-	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
損害保険料 (自動車保険)	-	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
車の維持費	1.0%	25	25	26	26	26	26	21	21	22	22	22	22	17	17	17	17	18	18	18	18	18
車の買換え	1.0%						156															
レジャー費	1.0%							53	54	54	55	55	56	56	57	57	58					
結婚資金援助	1.0%				103																	
パリアフリー化工事	1.0%		480																			
住宅ローンの繰上返済																						
支出合計		560	1,147	641	748	804	522	383	372	375	379	383	945	384	388	391	395	341	344	348	328	331
年間収支		94	-493	13	-94	-150	132	2,411	-320	-323	-327	-331	-647	-49	-53	-56	-60	-6	-9	-13	7	4
貯蓄残高 (運用率)	0.5%	1,000	512	528	437	289	422	2,835	2,529	2,219	1,903	1,582	943	899	850	798	742	740	735	726	737	745
(注)1. ご家族の年齢は、各年度末時点の満年齢で表示しています。 (注)2. 万円未満は四捨五入しています。																						
終価係数		1.010	1.020	1.030	1.041	1.051	1.062	1.072	1.083	1.094	1.105	1.116	1.127	1.138	1.149	1.161	1.173	1.184	1.196	1.208	1.220	1.220

対策後のキャッシュフロー一表 (単位:万円)

	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
2041	2042	2043	2044	2045	2046	2047	2048	2049	2050	
75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	
74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	
46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	
38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	
77	77	77	77	77	77	77	77	77	77	77
130	130	130	130	130	130	130	130	130	130	130
70	70	70	70	70	70	70	70	70	70	70
6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
283	283	283	283	283	283	283	283	283	283	283
301	304	307	310	313	316	319	322	326	329	
30	30	30	30	31	31	31	32	32	32	
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
335	338	341	344	348	351	354	358	362	365	
-52	-55	-58	-61	-65	-68	-71	-75	-79	-82	
697	645	590	532	470	404	335	262	184	103	
1,232	1,245	1,257	1,270	1,282	1,295	1,308	1,321	1,335	1,348	

